

障害児者向け施設



アレーズ秋桜

 こすもす
 アレーズ秋桜


DESIGN Concept

家型をモチーフにした切妻屋根を採用することにより、家としての生活の場を感じながら、周辺の住宅環境に溶け込めるよう配慮した建物にしています。

アレーズとは

フランス語で「くつろいで、ゆったり」という意味を表します。普段自分の家で暮らすように、リラックスして生活してほしいという願いが込められています。

令和3年度中 オープン予定

アレーズ秋桜の完成イメージ

社会福祉法人永春会では、聴覚に障害を持つ子どもにとって住みやすい環境を整えるべく、東京都葛飾区に施設を建設する計画を立て、その開設準備を進めております。
また、障害を持つ成人の方が日中通って生活支援を受けるサービスも併設して行います。

■計画概要 所在地／東京都葛飾区水元二丁目 敷地面積／1348.48㎡ 延床面積／1,300㎡ 構造規模／木造地上2階建
事業主／社会福祉法人永春会(千葉県松戸市) 主な事業内容／福祉型障害児入所施設(定員30名)※1
生活介護事業所(定員20名)※2 相談支援事業所

※1 聴覚に障害を持つ子ども(3~18歳)を対象とする入所施設となります。ショートステイとしての利用(聴覚以外の障害児も可)ができます。

※2 重度の障害を持つ成人の方も利用ができる設備を整えています。

◎寄付を受け付けています

新施設の竣工・事業開始までには、聴覚障害児が対象となる施設のみで4億円近くの資金が必要です。東京都に施設整備補助金の申請をしておりますが、その内示は2020年7月頃と言われております。内示が下りてからは、本契約、建設開始といとまがありません。それまでに少なくとも1億円強の自己資金を確保する必要があります。

1. 寄付控除が不要な場合、聴覚障害児の会に振り込みください
聴覚障害児の会から、まとめて永春会聴覚障害施設建設部門へ寄付いたします。

寄付金振込先：金融機関 みずほ銀行 大塚支店(193)
口座番号 普通預金 2280813
口座名義 聴覚障害児の会

2. 寄付控除を受ける場合

まずは、永春会へ直接申し込んでいただくことになります
又は、聴覚障害児の会へ連絡いただく手続きを代行します。

- ① 永春会へ寄付の申し込みをする
永春会法人本部
〒271-0061 千葉県松戸市栄町西3-1036-3
電話：047-703-6111 Fax:047-703-6112
担当：吉岡 隆 事務局長
- ② 永春会から寄付申込書類が届きます
⇒ 申込者(書類に記入して)⇒ 永春会へ送る
お願い：日付の欄(年月日)は、記入しないでください
- ③ 永春会又は聴覚障害児の会からの連絡
⇒ 寄付受付確認の連絡後に寄付金の入金をお願いします。
入金確認後、永春会より寄付控除に必要な領収書をお届けします。
寄付については、毎回、所轄官庁の確認事項となっております。
お手数ではございますがご協力をお願い申し上げます。

●連絡先等 担当者：濱崎久美子
電話：080-4668-4941
e-mail: hamazaki@roujishien.com

 聴覚障害児の会
 だより

聴覚障害児の会事務局 〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-33-22-203
TEL.03-5980-8420 FAX.03-3918-4472
URL <http://roujishien.com>

みなさんとスクラムを組んで
～『アレーズ秋桜』に夢をのせて～



聴覚障害児の会 代表 濱田豊彦

ラグビーワールドカップを見て、“にわかラグビーファン”になられた方も多かった様ですね。日本代表は31人中15人が外国人で様々な背景を持ったメンバーでした。しかしこの日本代表は文化や言葉の壁を越えて、まさに『One Team』となって、日本の力を最大化させるときの一つの姿を示してくれたような気がします。

聞こえない子どもたちは、日本語の世界だけでなく手話や人工内耳(をはじめとする聞こえにくさからくるユニークな体験をする)世界の二つの文化(価値)を持った多様な存在です。私たち「聴覚障害児の会」が目指す社会は、だれもが共生社会の形成者としてそれぞれの夢に向かうことのできる社会です。そのためには子どもがお互いに対等の関係で“集うことのできる場所”が必要です。その役割を担ってきた金町学園は間もなくその役割を終えようとしています。それに代わる新施設『アレーズ秋桜』が施設整備補助金を受けられるかどうか審議される重要な時期が近づいてきています。

安心して生活ができ対等の関係で集うことのできる施設ができることで、聴覚障害児たちは幼児期には社会のルールを学ぶことになり、少年期には集団としての帰属意識が育ってきます。そして青年期には、聞こえる世界と自分を正面から相対化して、見つめなおしたり、お互いの人格に影響しあったりするようになります。聴覚障害児にとって重要な人格形成の場となるわけです。このように考えると、ともするとマイノリティーと見られていた聴覚障害児が、これからの社会にとって二つの価値を持った豊かで人間力の高い存在として活躍する場面がきっと出てくると思われま

新施設では知的障害などの他の障害の子どもたちが生活できるスペースもできる予定です。一層多様化する環境は、専門性の高い職員に寄り添われながらお互いの子どもたちにとってもプラスの影響を与えてくれるはず

近年、日本の産業界では多様性ゆえの違いをむしろ組織の強みとしていく“ダイバシティ”が求められています。また、高齢化が加速的に進む中で福祉支援テクノロジーの分野が国内の成長産業として注目されるようになってきました。都内にできる新施設はそのような企業の人材育成(異言語異文化体験など)や機器の開発においてもユーザーの声を提供していく機能も持ち得るものです。聴覚障害児が集うことで従来の福祉施設には無かった役割を果たせる可能性も秘めていると考えます(手話通訳をしてくれる試作品のロボットが施設内を歩いていたら楽しいですね)。また卒業生たちの中には聴覚障害者の世界をリードする人材も出てくると思います。その中で新施設は全国各地あるいは世界の聴覚障害者をつなぐ拠点の一つにもなれるのではないのでしょうか。そして、その活動を通じて地域のバリアフリーの推進拠点にもなっていけると考えます。

『アレーズ秋桜』の完成予想図が公開されました。聞こえない子どもたちにとって、安心して暮らすことのできる場所が、生まれ変わるように社会福祉法人永春会が先頭に立って汗を流してくれています。今まさに施設整備補助金申請が、東京都で認められ国の審議会にあげてもらえることができるかどうかの大切な時期にあります。みなさんどうぞこの状況をご理解いただくとともに、私たちと心の中でスクラムを強く組んで、一層の後押しをいただけたら幸いです。

『アレーズ秋桜』支援History

学業から就労&住居のコミュニティーという夢『アレーズ秋桜』を建設しようというのに、永春会、金町学園職員、聴覚障害児の親御さん、とほんの小さい集まりで頑張っている、この小さなコミュニティーを広め、社会的課題および金町学園のチャレンジを知ってもらい、若者たちも関われる場を作れたら、とレイモンドさん(ウエルスファーク証券(株)日本・社長)が交流会を企画してくださったのが始まりです。そのHistoryのご報告です。

『アレーズ秋桜』支援プロジェクトのスタート

◎初回は交流

お互いの取り組みを知るきっかけ、金町学園から『アレーズ秋桜』への近況報告、アイデア出しなどができればと。難聴の方々も参加される予定なのでお互いが見えやすい会場です。お招きした方々と自分との関係は、金町学園濱崎先生+NPO大塚クラブ高山さん+もう1名、それぞれ3~4年のお付き合い。大塚クラブとはFIT For Charity 2015で協業。Citibank田中さん+JP Morganマナーズさんは、CSRの横つながり。両社とも先進的に取り組まれている印象&個人的にはいつも関心感心している。Credit Suisse佐藤さん(n)、元UBS同僚。自分が手話に興味を持つきっかけをくれた方。UBS栗原さん(n)、加藤さん、降旗さん(n)、山崎さんは、手話サークル&金町&大塚クラブのサポーター。BlackRock角部さんは、元UBS同僚で釜石&手話つながり。Accenture八木さんは、親友。4年前の手話サークル交流会に参加。GE Healthcare山中様、まだお会いしたことありませんが4年前の手話サークル交流会に参加。(2018.6.6のメールから)

第1回(2018.8.23 於:日本橋フリー) 25人参加

「手話&金融CSR仲間のつながりから見切り発車で始めました」<濱崎先生>集まってくださった方々が、「ご自分やその仕事のためのgood tipsを求めて」という風に受け止めて参加してくださったのがよくわかる会でした。だから盛り上がりがさらによかったのだと思います。「知り合ったきっかけはともかく、知り合ってしまったら同等よ」との感覚で楽しめた会、今後とも、どうぞよろしく願いいたします。<企画コアリーダー大鹿さん>筑波技術大学の学生です。とても楽しく、刺激的な時間をありがとうございました!普段とはまた違った業界で活躍される皆さまのお話はとっっても興味深かったです。同時に自分の視野の狭さも実感…まずは中学英語辺りから再チャレンジしようと思います!今後も楽しい集まり、そして聞こえない子どもたちのために何かアクションを起こせるようにと思います。

第2回(2018.12.5 於:日本橋フリー) 40人参加

「若者、金町の職員、友達の友達が集められる楽しい安全な場所になりました。」主旨は前回と変わらず。初めての方々には謎かもしれません



が、こんな方々が集まっています。手話、ろう、難聴、聴覚障害の当事者およびサポーター;CSRや社会貢献活動にたいしての意識の高い方々。金町学園閉園=>アレーズ秋桜の移行にご興味のある方々。濱崎先生と高山さん、1回目の友達の友達たち。<濱崎先生>聞こえない子どもたちやその環境、育成に関して関心をお寄せいただけたこと、感謝申し上げます。さて、2021年度に新しい施設が誕生しますが、11月にはほぼ想定されることの枠組みができ、建物の設計等が緒につくことになっております。

第3回(2019.3.12 於:UBS room高雄) 社会へ巣立つ8人を励ます!!

「参加者から、金町学園卒園者に向けて何かできないかとの提案を受けて企画。8名の若者たち&素晴らしい祝辞、異言語ラブ、異業種仲間が増えました。コアリーダーグループ発足、チラシ作り、次回の流れへのヒントがたーくさん。」

第4回(2019.6.9 於:よいまち大手町) 57名参加

ウエルカムをしていただいた彼らのその後を!!

「立ち飲みで気軽に誰とでも&そして30歳以下の仲間には先輩がごちそうする。参加者の多様性と関わり有意義性が生まれるようなコミュニティーの芽が生えてきました。」

<濱崎先生>何事が起こっているのかと興味津々で、よいまちを通行される一般の方々の表情が盛会の証でした。参加された皆さん一人一人が楽しい会を作ってください、「また次も!」の気持ちでお帰りいただいたようです。アイデアをいただくことで、思いもかけない集いが発生することを期待しています。感謝!です。

<大鹿さん>年齢も、職業も、聞こえる聞こえないも関係なく、たくさんの方とお話することができました。場所のフリーさもあって、今までで一番多くの方とお話してきたかもしれません。でも、盛り上がりすぎて時間が経つのがあっという間…まだまだお話できなかった方もいらっやいましたので、次回9月10日も楽しみにしております!どんな会がいいか、アイデア大募集中です!

<川口さん>全8回のうち4回目が終わって、半分が過ぎようとしています。メンバーも100人くらい集まっており、普通の会としては運営が大変になりそうなキャパになっております…。つながりを増やしても、トラブルのないように進めていけたらいいと思いますね。9/10に向けて、楽しいアイデアがあればどしどし言ってください。宣伝になりますが、今年もダイアログ・イン・サイレンスをやることになりました。

<内堀さん>金町学園を卒園して社会に出た若者たちのとても楽しそうな表情を見て、うれしく、また皆さまのご支援に感謝の気持ちでいっぱいです。また、次回よろしく願いいたします。

<山中さん>皆さんと交流し、知り合いが増えていく。まさに人生の宝でした。また次回も人生の宝が増えることを楽しみにしています。



『アレーズ秋桜』は、聴覚障害児を主たる対象とした児童入所施設、重症の方も含めた生活介護の通所施設、それに相談支援事業所が同居した運営が計画されています。そこで、『相談支援事業』とはどのようなものか、東京都で長らく相談支援に当たってこられた筒井優子様にお話を伺いまとめました。

<事業の目的>

昭和から平成、そして令和への時代の移り変わりとともに、障害児・者の教育や医療、福祉、介護を取り巻く生活環境にも目覚ましい変化が起きています。地域での人々の関わりは希薄化し、ITによる情報の過多や氾濫の中で、自分で情報を選択して自分の進むべき方向を見出しながら生きていくことの辛さや困難さを、誰もが日常的に抱えています。障害児を育てる環境も、子育てへの不安や心のゆとりがなくなることで虐待や疎外感に繋がりが易く、心の支援が必要な親子も増えています。

障害児の早期発見、早期教育による効用とその課題、そして人生100年と言われる今日においては、高度医療の恩恵もあり障害者の長生き、加齢による重度化、重複化、高齢障害者の独居問題、終末期に向けた不安等も多々みられます。時代の変化と共に生じる多様で複雑な問題、悩みや不安を解決し具体的な対策を考え、その都度安心して暮らせるよう相談に乗るのが、相談支援事業です。

高度な専門技術を持ったスタッフが、問題の状況や必要に応じて、他の職種の専門家と連携しながら適切に助言し、障害児・者が安心して未来へ向け、明るい見通しが持てる様、生活している身近な場所で「相談支援」が受けられることを目的とします。

<対象の方々>

身体障害(聴覚言語障害、視覚障害、身体障害)、知的障害、精神障害(発達障害、特に対人障害)のある、乳幼児から高齢者までの幅広い方々が対象になります。

<相談の内容>

教育相談(子育て相談を含む) 思春期相談 進路相談 就労相談 職場問題 コミュニケーション問題 生活相談 補聴相談 心理相談(ひきこもりや心の相談) 法律相談 介護相談 エンディングに向けた相談 後見問題 その他です。

<相談スタッフ>

精神保健福祉士・社会福祉士・看護師・保健士・言語聴覚士・公認心理士・理学療法士・作業療法士など、全て有資格者が対応します。また、相談内容により精神科医や総合診療医師・弁護士・司法書士などの力を借りることになります。

<相談時間>